

SELF-HOSTING

# 外部のMSSQLデータベースに 接続する

ヘルプセンターで表示:

<https://bitwarden.com/help/external-db/>

## 外部のMSSQLデータベースに接続する

デフォルトでは、自己ホスト型のBitwardenインスタンスは、インストールセットアップの通常の一部として作成されたMicrosoft SQL Server (MSSQL) データベースを使用しますが、Bitwardenを外部のMSSQLデータベースを使用するように設定することもできます。

### Note

現時点では、自己ホスト型のBitwardenインスタンスはMSSQL 2017をサポートしますが、Bitwardenが推奨する最小のSQLバージョンはServer 2019です。

Bitwardenは可能な場合にはSQL Server 2022をサポートし、推奨しています。

サーバー2017のメインストリームサポートは2022年10月に終了したため、特定のSQLサーバーバージョンのサポートが減少することは、Bitwardenが特定のSQLサーバーバージョンで利用できない機能を実装した場合、こことリリースノートでメモされます。

## 設定

外部データベースを使用して自己ホスト型インスタンスを設定するには：

1. 新しいMSSQLデータベースを作成します。
2. (推奨) データベース専用のDBOを作成してください。
3. あなたのBitwardenサーバーの管理者として、エディタで`global.override.env`ファイルを開きます：

```
Bash
```

```
nano bwdata/env/global.override.env
```

4. 次の情報に対して`globalSettings__sqlServer__connectionString=`の値を編集してください：

- "データソース=tcp:mssql,1443";をあなたのMSSQLサーバー名に置き換えてください。例えば、"データソース=プロトコル:サーバーURL,ポート"のようにします。
- 保管庫をInitial Catalog=保管庫;であなたのデータベース名に置き換えてください。
- ユーザーID=sa;をあなたのDBOユーザーIDに置き換えてください。
- パスワード=;をあなたのDBOパスワードに置き換えてください。

5. あなたの変更を`global.override.env`に保存してください。

6. Bitwardenを起動します (`./bitwarden.sh start`) 。

上記の手順が完了したら、ウェブ保管庫を通じて新しいユーザーを作成し、新しいユーザーの作成のための外部保管庫データベースを照会することで接続をテストできます。

## サーバー証明書を検証する

あなたがBitwardenにMSSQLデータベースサーバーの証明書を検証させる必要がある場合、証明書を自己ホスト型のBitwardenサーバーのコンテナにマウントしてください。これを行うには：

1. あなたのルートCA証明書を `./bwdata/ca-certificates` にコピーしてください。
2. `./bitwarden.sh restart` コマンドを実行して、証明書をコンテナに適用し、サーバーを再起動します。